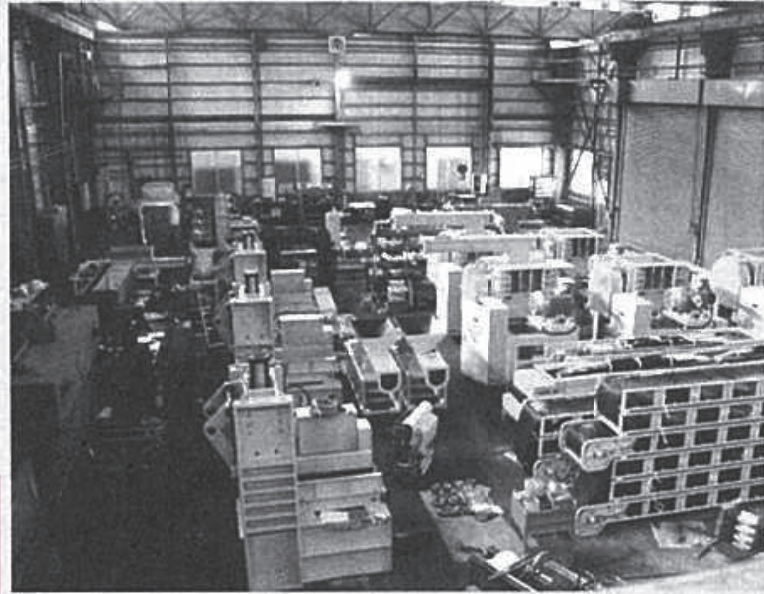


リサイクル装置の開発メーカー、エムダイヤ（上市町、社長森弘吉氏）は、主力製品で廃棄物の分離・破碎を同時に行う「エコセパレ」の受注が好調で、手狭になった上市工場から新しく滑川市の追分工業団地内に工場を移転した。工場面積は約二千平方メートルで、旧工場の六倍以上の広さになった。設備も五

トクレ
ン二
台、三
トクレ
ン一
台のほ
か、五
百トの
曲げプ
レスや
百五十
トの切
断機を



備え、より大型装置を生産できる体制を整えた。

エコセパレは、廃棄物を投入するだけでプラスチックや金属を分離・破碎して自動分別する装置で、廃タイヤや光ケーブル、木材など多種多様な廃棄物を処理できる。三月上旬には、ケーブル工事会社の北海道にあるリ

サイクル施設向けに、月三百トの処理能力をもつ光ケーブル処理用大型システムを納入した。エコセパレへの反響は最近、中国やロシアなど海外からも高まっている。これを受けて海外のリサイクル事情について綿密な調査を行うとともに、国内外で開かれる各展示会へ積極的に出展し、リサイクル需要の成長

大型装置生産へ、新工場に移転 新興国向けの輸出専門会社を設立 エムダイヤ

が見込
まれる
新興国
への輸
出にも
本格的
に取
組んで
いく。
昨年
十二月
にジェ
トロの

輸出有望案件発掘事業に採択され、今年四月には海外事業を担当する新会社を設立する予定で、三年後の輸出開始を計画している。「国内の光ケーブルの処理需要はこの数年でピークを迎える。新しいリサイクル需要の分野に向けた事業展開を進めたい」（森社長）考えだ。